

TSUJIZAKI MUTSUMI XYLOPHONE RECITAL

WITH
QUARTET EXCELSIOR

2019
10/11 FRI.

● OPEN 13:30 START 14:00
● OPEN 18:30 START 19:00

木琴
×
弦楽四重奏
クアルテット・エクセルシオ

通崎睦美 木琴リサイタル

銀座 王子ホール

通崎睦美 木琴リサイタル

通崎睦美 木琴

1967年京都市生まれ。京都市立芸術大学大学院音楽研究科修了。マリンバのソリストとして活動中、2005年東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会（指揮／井上道義）で、木琴の巨匠・平岡養一氏が初演した紙恭輔「木琴協奏曲」（1944）を平岡氏の木琴で演奏。それを機に、氏の愛器と約600点にのぼる楽譜やマレットを譲り受けた。以後、演奏・執筆活動を通して木琴の復権に力を注いでいる。2013年に上梓した平岡の評伝『木琴デイズ 平岡養一「天衣無縫の音楽人生」』（講談社）で、第24回吉田秀和賞、第36回サントリー学芸賞（社会・風俗部門）を受賞。翌年より地元京都で、年に2回、本の内容を音楽で巡るシリーズ「今、甦る！木琴デイズ」を開催している。2018年4月には、ニューヨーク州立大学オスウィゴ校の招きで渡米。同大学をはじめニューヨーク州郊外の各地でコンサートやマスタークラスを行った。また、2000年頃よりアンティーク着物の着こなしが話題となり、コレクションやライフスタイルが様々なメディアで紹介されている。同時期より文筆活動を始め、現在、産経新聞大阪本社夕刊にて隔週コラム、読売新聞日曜読書欄にて書評を執筆している。CDに「1935」「スパイと踊子」他、著書に『天使突抜一丁目～着物と自転車と』（淡交社）他。

PHOTO_TADAAKI NAKAGAWA

1935年アメリカ製の木琴を弾き始めて14年になる。

この楽器の前オーナーである木琴の巨匠・平岡養一は「僕はね、仮に世界で僕一人だけになっても、マリンバは弾きませんよ。あの楽器だけは弾きません」という言葉を遺し、1981年にこの世を去った。気がつけば、5歳の頃からマリンバに慣れ親しんだ私の心も、今やすっかり木琴にある。

現在、クラシック音楽の世界で「木琴奏者」を名乗るのは、世界で私一人らしい。そんなわけで、現代に木琴の魅力を伝えるべく、木琴の様々な表情を引き出せる編成を考え、演奏会を企画している。

今回お聴きいただく木琴と弦楽四重奏の組み合わせは、平岡養一も好んだもの。1936年ニューヨークにおける初リサイタルでもニューヨーク・フィルのメンバーからなるカルテットと舞台上がり、その後も共演を重ねた。

アフリカ、中南米由来、豊かな残響を持つマリンバ（Marimba）に対し、軽やかな音色の木琴（Xylophon）は、ルネサンスの時代からヨーロッパで親しまれていた。弦楽器と溶け合う木琴のチャリングな音色は、そんな素性を思い起こさせる。

今回は、平岡の十八番モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」や、台湾出身の作曲家・江文也が平岡に献呈した「祭りばやしの主題による狂詩曲」など弦楽四重奏とのアンサンブルの他、チェロとデュオでのバロック音楽など、編成にも変化を持たせて演奏する。

日本を代表する弦楽四重奏団、カルテット・エクセルシオとの共演は、2年ぶり2度目。和やかで、時に刺激的なアンサンブルを是非お楽しみください。

〈木琴独奏〉
カプリッチョ・アマリリス ____ 西邑由記子
「鳥ノ遊び ～木琴奏者ノ為ノ物語～」より* ____ 平野一郎

〈弦楽四重奏〉
岸辺のモリー ____ P. グレインジャー

〈木琴+チェロ〉
ソナタ「忠実な羊飼ひ」第4番より 他 ____ A. ヴィヴァルディ

〈木琴+ヴァイオリン+チェロ〉
〈3声〉のインヴェンション「インヴェンションとシンフォニア」より ____ J.S. バッハ / 林光編

〈木琴+ヴァイオリン+ヴィオラ+チェロ〉
フルート四重奏曲 ____ W.A. モーツァルト

〈木琴+弦楽四重奏〉
チャールダシュ ____ V. モンティ / 西邑由記子編
アイネ・クライネ・ナハトムジーク 第1楽章 ____ W.A. モーツァルト / 平岡養一版
3つの小品 ～「草稿の森」より ____ 林光 / 野田雅巳編
祭りばやしの主題による狂詩曲 ____ 江文也 / 松園洋二編

●使用楽器

ディーガン・アーティスト・スペシャル・ザイロフォン No.266（1935年、1962年改造、アメリカ製）
ディーガン・スーパー・ライト・ウエイト・ザイロフォン No.834（1920年代、アメリカ製）*



QUARTET EXCELSIOR

カルテット・エクセルシオ

弦楽四重奏

西野ゆか（第1ヴァイオリン） 北見春菜（第2ヴァイオリン） 吉田有紀子（ヴィオラ） 大友肇（チェロ）
「繊細優美な金銀細工のよう」（独フランクフルター・アルゲマイネ紙）と'16年ドイツデビューで称賛された、年間70公演以上を行う日本では数少ない常設の弦楽四重奏団。ベートーヴェンを軸に王道レパートリー『定期公演』、20世紀以降の現代作品に光をあてる『ラボ・エクセルシオ』、人気傑作選『弦楽四重奏の旅』、次世代の弦楽四重奏団との共演『カルテット・ウィークエンド』の4シリーズを展開しつつ全国的に活動。加えて、室内楽の聴衆の輪を広げる活動も積極的にに行い、米国、欧州、アジアと海外公演も回を重ねている。第5回パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏コンクール最高位、第19回新日鉄音楽賞「フレッシュアーティスト賞」、第16回ホテルオークラ音楽賞など受賞歴多数。'16年サントリーホール主催により2週間、ベートーヴェンの弦楽四重奏全16曲チクルスを日本団体として初演奏。同年6月まで6年間『サントリーホール室内楽アカデミー』にてファカルティを務め、引き続き後進の指導にもあたっている。
2017年4月より浦安音楽ホールのレジデント・アーティストに就任。
オフィシャル・ウェブサイト <http://www.quartet-excelsior.jp/>

2019年10月11日(金)

●13時30分開場 14時開演 ●18時30分開場 19時開演
※90分公演 休憩はありません

入場料 | 全席自由 3500円 一般発売日 6月21日(金)

王子ホールチケットセンター: 03-3567-9990 / ヒラサ・オフィス: 03-5727-8830

イープラス: <https://eplus.jp>

チケットぴあ: 0570-02-9999 <http://t.pia.jp> [Pコード: 156-296]

ローソンチケット: 0570-000-407 (オペレーター対応 10時～20時) [Lコード: 32335]

ローソンおよびミニストップ店頭 Loppi 直接購入(24時間受付) <https://l-tike.com/>

企画: 通崎睦美 主催: ヒラサ・オフィス お問合せ: ヒラサ・オフィス 03-5727-8830



●電車

○JR有楽町駅下車 銀座口から徒歩7分 ○地下鉄銀座駅下車 A12出口から徒歩1分 ○地下鉄銀座一丁目駅下車 9出口より徒歩5分 ○地下鉄東銀座駅下車 A2出口から徒歩2分

銀座 王子ホール